

環境活動レポート

(対象期間:2010年1月-12月)

(株)中セキ関西 本社並びに兵庫支社事務所

承認	審査	審査	作成

〒675-0103
兵庫県加古川市平岡町高畑348-1
TEL 079-424-5357
FAX 079-426-1632

環境活動レポート

1.事業活動の概要

1)最高責任者名

代表取締役 社長 高塩 壽雄

最高責任者代行 専務取締役 営業本部長 瀧澤 雅彦

2)所在地

本 社 〒675-0103 兵庫県加古川市平岡町高畑348-1 (登録範囲内)

兵庫支社 〒675-0103 兵庫県加古川市平岡町高畑348-1 (登録範囲内)

阪和支社 〒587-0012 大阪府堺市美原区多治井181-1 (登録範囲外)

滋賀支社 〒523-0015 滋賀県近江八幡市上田町1320 (別途登録済み)

京都支社 〒613-0024 京都府久世郡久御山町森川端8 (登録範囲外)

41営業所 (住所省略, 加古川営業所を除き登録範囲外)

3)環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 常務取締役 管理部長 農山 太龍

事務局長 管理部 担当部長 南 孝明

連絡先 TEL:079-424-5357、FAX:079-426-1632

4)事業の内容

事業活動 : 農業機械の販売並びに修理

農業機械の販売:トラクター、コンバイン、田植機、乾燥機、糞摺り機等の農業機械、
これらに活用する作業機並びに部品

農業機械の修理:販売した農業機械の整備並びに修繕修理

5)事業の規模

総従業員数 : 337名

総年商 : 843,200万円(平成21年度)

6)エコアクション21認証・登録の対象範囲

登録組織名 : 株式会社キセキ関西 本社並びに兵庫支社事務所

関連事業所 : 兵庫支社 〒675-0103 兵庫県加古川市平岡町高畑348-1

加古川営業所 〒675-0103 兵庫県加古川市平岡町高畑348-1

対象従業員数 : 39名

登録対象外 : 阪和支社、京都支社、加古川営業所以外の40営業所

(未登録のサイトは、2014年までに拡大予定)

※滋賀支社は、2006年5月独自にエコアクション21登録している。

活動内容 : 農業機械の販売並びに修理

2.環境方針

(株)中セキ関西の本社並びに兵庫支社事務所(加古川市平岡町高畑348-1)で
全ての環境に関わる重要性を認識し、環境に優しい事業活動を行う為に、最高責任者を
筆頭に各部門の業務展開を行う過程で環境に対する継続的改善を実行します。

- 1、環境に関連する法規制等を遵守します。
- 2、環境マネジメントシステム(EA21の考え方)を効果的に運用し環境問題の
リスクを回避します。
- 3、資源・エネルギーの削減に取り組みます。
- 4、廃棄物の削減に取り組みます。
- 5、総排水量の抑制と適正使用に取り組みます。
- 6、グリーン購入に取り組みます。
- 7、製品及びサービスに関する環境配慮に取り組みます。
- 8、環境レポートを作成し、環境マネジメントシステムに積極的に取り組みます。

—この環境方針は、要求があった場合、社外の人にも公開します。—

制定 2005年07月01日
改定 2011年03月01日
(株)中セキ関西 最高責任者

代表取締役 社長
高塩 壽雄

3.環境目標と実績

3-1 環境への負荷実績(環境負荷の自己チェックより)

環境負荷の自己チェックより過去3年間のコア指標の実績は以下の通りでした。

環境への負荷の状況

インプット項目	単位	2008年度	2009年度	2010年度
総エネルギー投入量	MJ	2,798,871	2,805,562	2,995,624
従業者1人当たり	MJ/人	71,766	71,937	76,811
水資源投入量	m ³	1,268.0	1,282.0	1,704.0
従業者1人当たり	m ³ /人	32.5	32.9	43.7

アウトプット項目	単位	2008年度	2009年度	2010年度
温室効果ガス排出量	kg-CO ₂	156,820	178,092	168,256
従業者1人当たり	kg-CO ₂ /人	4,021	4,566	4,314
一般廃棄物排出量	t	10.5	14.0	13.5
従業者1人当たり	t/人	0.27	0.36	0.35
産業廃棄物排出量	t	11.0	14.0	14.0
従業者1人当たり	t/人	0.28	0.36	0.36
総排水量	m ³	1,268.0	1,282.0	1,704.0
従業者1人当たり	m ³ /人	32.5	32.9	43.7

※電力のCO₂排出係数は、関西電力の平成21年度の数値:0.294kg-CO₂/kWhを用いた。

環境負荷の概要は以下の通りである。

- 1)温室効果ガス排出量は、増加している。
- 2)廃棄物等総排出量は、増加している。
- 3)総排水量は、前年と同様にほぼ横ばいに推移している。
- 4)化学物質は使用していない。

3-2 環境目標

EA21のコア指標である「温室効果ガス排出量」「廃棄物等総排出量」及び「総排水量」の3項目の削減など中期環境目的を設定しました。環境負荷低減のための中期目的は次の通りです。「温室効果ガス排出量」と「廃棄物等総排出量」と「総排水量」の削減率は1%/年としました(いずれも2008年度比)。

環境目標

項目	単位	2009年	2010年	2011年
温室効果ガス排出量の削減	kg-CO ₂	155,251 (△1%)	153,683 (△2%)	152,115 (△3%)
廃棄物等総排出量の削減	t	27.2 (△1%)	27.0 (△2%)	26.7 (△3%)
総排水量の削減	m ³	1,255.3 (△1%)	1,242.6 (△2%)	1,230.0 (△3%)
グリーン購入の推進	品目数	2品目	3品目	4品目
製品及びサービスに関する環境配慮	—			疎植栽培の普及推進

【疎植栽培(そしょくさいばい)とは?】

疎植栽培とは坪当たりの植え付け株数を従来より減らして育てる栽培方法です。今までと同じように田植えをして、肥料をまいて、水管理をして、収穫する。特別なノウハウが必要なわけでもなく、従来とまったく異なる稲づくりでもありません。キセキが提案する疎植栽培は、植え付け株数を従来より減らすことによって、生産者の皆様の低コスト・省力化に貢献し、様々なメリットをもたらす栽培方法です。

4.環境活動計画(2010年度)の内容

- 1)省資源・省エネルギー及びコスト低減を推進する(2008年度比2%減)
 - ・省エネルギー改善提案を行う。
 - ・排ガス規制車両の更新
 - ・冷暖房機の使用回数の低減
 - ・エネルギー効率の高い機器の導入
 - ・省エネポスターの掲示による意識高揚
- 2)廃棄物の削減(2008年度比2%減)
 - ・紙削減のため両面印刷及び裏面印刷の実施
 - ・詰め替え可能な製品の利用や備品の修理
- 3)総排水量の削減(2008年度比2%減)
 - ・水使用量と金額を全員に認識させる。
 - ・ポスターの掲示による意識高揚
 - ・洗濯回数の削減
- 4)グリーン購入の推進
 - ・グリーン購入品(詰め替え商品等)の品目を増やし、優先購入を促進する。

5. 環境への取組結果の評価

(1) 環境目標達成状況

環境目標	単位	2010年度 環境目標達成結果		
		目標	実績	変化率・評価
温室効果ガス排出量の削減	kg-CO ₂	153,683	168,256	9.5% 増加 ×
電力使用量の削減	kg-CO ₂	25,777	28,072	8.9% 増加 ×
化石燃料使用量の削減	kg-CO ₂	127,906	140,185	9.6% 増加 ×
廃棄物等総排出量の削減	t	27.0	27.5	2.0% 増加 ×
総排水量の削減	m ³	1,242.6	1,704.0	37.1% 増加 ×
グリーン購入の推進	品目数	3	3	- 達成 ○

【凡例】 評価欄 ○:達成、×:未達成

(2) 取組結果の評価

1)温室効果ガス排出量については、購入電力使用量及び化石燃料使用量が増加したため、増加している。本社社屋及び工場の建替え工事があり、電力が増加したものと見られる。今後とも積極的に省エネに努めて行く。

2)廃棄物等総排出量については、分別廃棄等を推進した結果、ほぼ横這いとなった。今後とも積極的に紙の節約や詰め替え可能な製品の利用や備品の修理により廃棄物削減に努めて行く。

3)総排水量については、ポスターを掲示し意識高揚による使用量の削減効果と洗濯回数効率化を図ったが、目標をかなり上回り未達成となった。これは、本社建替工事の為と見られる。今後とも社員の節水意識を高め、削減に努めて行く。

4)グリーン購入の推進については、品目を増やし拡大に努める。

6. 環境関連法規遵守状況の評価

環境基本法に基づく下記の環境関連法規を遵守しており、違反はなく、外部からの苦情もありませんでした。なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

内容	評価
廃棄物処理法	遵守
消防法	遵守
自動車NO _x ・PM法	遵守
毒物及び劇物取締法	遵守
家電リサイクル法	遵守
改正リサイクル法	遵守
グリーン購入法	遵守

7. 代表者による全体評価と見直しの結果

2010年度は、本社建替え工事等の影響により、温室効果ガス総排出量、廃棄物総排出量、総排水量等の削減目標を達成出来なかったが、今後は社員の意識を高め、取組を強化することによって目標達成するよう努力したい。

又、製品及びサービスに関連する環境配慮の一環として、新テーマ“疎植栽培の普及活動”を進めることにより、顧客の環境への負荷低減に寄与して行きたい。

以上